

平成 22 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19402023

研究課題名 (和文) 移行経済諸国における多国籍企業とホスト国産業資源のリンケージに関する実証分析

研究課題名 (英文) Multinational Enterprises and Industrial Resources in Transition Economies

研究代表者

岩崎 一郎 (IWASAKI ICHIRO)

一橋大学・経済研究所・教授

研究者番号：70323904

研究代表者の専門分野：移行経済論，組織経済学，比較経済体制論

科研費の分科・細目：社会科学A・応用経済学

キーワード：移行経済，多国籍企業，地元産業資源，ハンガリー，ロシア

### 1. 研究計画の概要

本研究プロジェクトは、ハンガリー及びロシアを主要研究対象国として、旧社会主義移行経済諸国に進出した外国資本や多国籍企業とホスト国経済資源(人的資本や地元企業)の相互リンケージの形態と水準を、企業インタビュー調査や大規模パネルデータに基づいた比較制度論的・計量経済的分析によって解明すると共に、その研究成果に基づいて、ホスト国における外資系企業の定着と当該国国民経済システムとのより緊密かつ適切な産業連関の深化を促進するような諸政策の提言を行うことを目標としている。

### 2. 研究の進捗状況

(1) 研究初年の平成19年度(2007)は、本研究の基礎となる現地企業調査の準備期間として、次の研究作業を遂行した。即ち、ハンガリーについては、同国政府機関より、国内企業約150,000社を対象とした1998～2005年のパネルデータを獲得し、その解析に着手した。また同国に進出した多国籍企業の現地法人、それらのサブコントラクター企業及び非サブコントラクター企業を対象とする大規模アンケート調査を平成20年度に実施すべく、平成20年2～3月にそのパイロット調査を遂行した。他方のロシアについては、主として平成17年上半年期に一橋大学経済研究所とロシア連邦国立大学高等経済院産業市場研究所が共同実施した大規模アンケート調査の諸結果に基づいて、ロシア企業のコーポレートガバナンスに対する外国資本の影響等を実証的に分析した。(2) 続く平成20年度(2008)は、ハンガリーに関

しては、平成20年春に実施したパイロット調査の結果を踏まえて同年秋に本調査を行い、その結果、製造業企業191社及びサービス業企業196社から有効回答を得た。一方のロシアについては、上記企業アンケート調査結果の実証分析を更に推し進めた。

(3) 平成21年度(2009)は、ハンガリーについては、企業インタビュー調査の結果を用いて、多国籍企業子会社を含むハンガリー企業の所有構造や組織イノベーション活動に関する実証研究を行った。また、国家税務局提供の大規模企業パネルデータを用いた産業クラスターに関する実証研究も同時並行的に進めた。ロシアについては、これまでの実証研究の成果を集約した英語論文集 *Organization and Development of Russian Business: A Firm-Level Analysis* を、Palgrave Macmillan社から刊行した。

### 3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

同判断を基礎付ける主な理由として、(1) ハンガリーにおける企業アンケート調査は、計画通り平成20年度に、ロシア株式会社に関するデータベースの補強作業は、平成19年度に各々完了していること、(2) 平成20年度には、研究成果の学会発表や査読付き学術誌への発表を既に多数実現したこと、(3) 平成21年度には、ロシア企業に関する研究成果を、英語論文集として刊行した上、ハンガリーについても計画以上の点数の雑誌論文を発表することが出来た、という3点を指摘することができる。また、研究成果の社会的還元の一環として、これまでに合計13回の

口頭報告を行ったが、そこには、政府関係者や民間企業家を対象とする海外でのコンファレンスが含まれていることも、当初の研究計画に沿った大きな進展と評価することができる。

#### 4. 今後の研究の推進方策

上記の通り、本研究の全体的進捗状況は十分に満足できる水準に達しているものの、計画調書に盛り込んだ研究課題が、悉く掘り下げられている訳ではない。例えば、ハンガリーにおける外資系メーカー企業のサブコントラクターに対する要求条件とこれに対する地元企業の反応行動や、ロシアにおける外資系メーカーと地元中小企業とのサブコントラクター契約の現代的水準と将来見通しに関する実地調査は、この観点に関する外資系・国内企業双方の情報開示に対する消極的な態度のために大きな困難に直面している。これら研究不十分な課題の遂行が、最終年度の目標となるが、我々研究チームは、追加的な企業訪問や関係者のインタビュー調査等を実施して、この課題の克服を図りたいと考えている。

#### 5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計 21 件)

- ① Iwasaki, I. and Suganuma, K., “EU Enlargement and Foreign Direct Investment into Transition Economies Revisited,” *Transnational Corporations*, 査読有, 18(3), 2009, pp. 27-57.
- ② 岩崎一郎「国家所有・私有化・企業再建：ハンガリー企業の実証分析」『経済研究』査読有, 60(1), 2009年, pp. 29-46.
- ③ Iwasaki, I., “The Determinants of Board Composition in A Transforming Economy: Evidence from Russia,” *Journal of Corporate Finance*, 査読有, 14(5), 2008, pp. 532-549.
- ④ Iwasaki, I., “Enterprise Reform and Corporate Governance in Russia: A Quantitative Survey,” *Journal of Economic Surveys*, 査読有, 21(5), 2007, pp. 849-902.

[学会発表] (計 13 件)

- ① Iwasaki, I. “The Concentric-Circle Structure of FDI Productivity Spillovers: The Case of Manufacturing and Business Service Sectors in Hungary,” The 3rd International Service and Outsourcing Conference, Hungarian Service and Outsourcing Association, October 9, 2009, Mercure Budapest Buda Hotel (Budapest, Hungary).
- ② Iwasaki, I. “Hungarian Managers in

Multinationals: An Outlook,” The International Conference on Globalization and Local Development, School on Local Development, October 10, 2008, University of Trento (Trento, Italy).

[図書] (計 5 件)

- ① 岩崎一郎・鈴木拓, ミネルヴァ書房, 『比較経済分析：市場経済化と国家の役割』, 2010年, xvii+349 pp.
- ② Dolgopyatova, T. G., Iwasaki, I. and Yakovlev, A. A., eds., Palgrave Macmillan, *Organization and Development of Russian Business: A Firm-Level Analysis*, 2009, pp. 1-35, pp. 62-147.

以上。